

25:1 そこで、天の御国は、たとえて言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。

25:2 そのうち五人は愚かで、五人は賢かった。

25:3 愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。

25:4 賢い娘たちは、自分のともしびと一しょに、入れ物に油を入れて持っていた。

25:5 花婿が来るのが遅れたので、みな、うとうとして眠り始めた。

25:6 ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ』と叫ぶ声がした。

25:7 娘たちは、みな起きて、自分のともしびを整えた。

25:8 ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』

25:9 しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはどうも足りません。それよりも店に行って、自分のをお買いなさい。』

25:10 そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼と一しょに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。

25:11 そのあとで、ほかの娘たちも来て、『ご主人さま、ご主人さま。あけてください』と叫んだ。

25:12 しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません』と叫んだ。

25:13 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。

はじめに

引き続き、マタイの福音書にあるイエスの五大説教の学びです。

五大説教の 5 つめの説教の終盤まで来ました。

ここでイエスが弟子たちにたとえを使って教えておられるのは、再臨に備えることの大切さと、再臨を待つ間イエスのために率先して動くことの大切さです。

今月の個所が呼びかける課題は、イエスの再臨に備えることです。そして、来月の課題は、イエスが戻られるまでの時間を賢く用いることです。

今月は、賢い娘たちと愚かな娘たちのたとえから学びます。来月は、タラントのたとえから学びます。

イエスの再臨の前兆についてはすでに学びました。また、大患難時代についても学びました。

もちろん、それらの前兆は、新生したクリスチャンだけが再臨と関連付けます。

世間は、イエスの再臨の前に起こる事柄を、地球温暖化やどこかの国の大統領のせいだと考えるでしょう。

けれども、イエスは詳細にわたってわざわざご自身の再臨とその前兆について説明しておられません。ですから、そこに記された事柄が起こる時代は、再臨と大きく関連しているのです。

さて、賢い娘たちと愚かな娘たちのたとえを学ぶ前に、少し事前情報が必要です。

まず、当時のユダヤ人の婚礼について知る必要があります。

当時のイスラエルでは、結婚のお祝いには村や近隣住民のほとんど全員が参加しました。皆が、準備などに関わるお迎えする側か、お客さんかどちらかなのです。

ユダヤ人の結婚のしきたりには三段階ありました。

1. 許嫁 (いいなづけ)

これは、新婦の父親が新郎と相談して決めます。新郎新婦の親族が交わす家同士の契約でした。当人同士が直接会う何年も前に婚約が成立している場合もありました。

2. 婚約

婚約では、新郎と新婦が家族や友人の前で誓いを交わします。この時点で、ふたりは法律的に夫婦とみなされます。ふたりの関係を破棄するには、離婚しなければなりません。した。

しかし、この時点でふたりはまだいっしょに暮らしません。新郎は、職を得て、新居を建てなくてはなりません。これに一年ほどかかることがありました。

3. 婚礼の宴会

第三段階は、婚礼の宴会と呼ばれます。

この祝宴が終わると、ふたりはいっしょに暮らせます。

この祝宴は約一週間続き、村や町全体が出席します。新郎新婦は、ふたりの婚礼の宴会が始まることを宣言しながら町中を練り歩きます。

その行列は、たいてい夜に町を歩き巡ります。その際、道を照らすことと人々の注意を引くことというふたつの目的で、行列は燭台やたいまつを持ちます。

婚礼の宴会の最後には、新郎の親友が新郎新婦に手を取らせ、結婚が正式に成立します。

ふたりは最後に祝宴を離れ、ふたりの新居での暮らしを始めます。

この結婚の第三段階が今日のたとえの場面設定です。

今日のたとえは、3つに分けて学ぶことができます。

1. ブライズメイド（賢い娘たちと愚かな娘たち） -1-5 節

この話には、花婿を迎える 10 人の娘たちが登場します。

そのうちの 5 人は賢い娘たちで、他の 5 人は愚かな娘たちでした。

賢い娘たちは、別の容器に予備の油を用意しておくのが賢明だと心得ていました。一方、愚かな娘たちは、ランプに油は入れましたが、予備の油は用意していませんでした。

ご覧のとおり、当時のオイルランプは小さくて原始的なものです。3-4 時間で油が切れてしまうでしょう。

今日の個所には、娘たちが皆、花婿を迎えるために出かけましたが、花婿が遅れたとありません。どこかのお宅で飲み物を出されて引き留められたのでしょうか。

この娘たちが何時ごろ出かけたかは書いてありませんが、午後 8 時ごろだったとしましょう。夏場の良い季節だったのでしょうか。2-3 時間もすると、娘たちは疲れてそのあたりに横になって居眠りをしてしまいました。

安全のために、ともしびはつけっぱなしだったのでしょうか。

ここまでで何が言えるでしょう。

この物語には 10 人の娘たちが登場します。この「娘」と訳された原語は「処女」を指す単語です。処女とは、男性と性的関係を持ったことのない女性のことです。当時、性的純潔は婚前の絶対条件と考えられていました。

神は聖なるお方です。私たちは、告白せず赦しを得ていない罪を持ったままの状態で神の御前に出ることはできません。ユダヤ人にとって、10 という数字は完結を意味しました。過越しを祝うためには、10 人の男性が必要でした。また、ユダヤ教の会堂を礼拝の場所として設立するにも、10 人の男性が必要でした。

そして、公式の結婚の祝福にも 10 人の人が必要でした。

ですからイエスは、このたとえの重要性を示すために、10 という数字を慎重に選ばれたのです。完結を意味するこの数字がカギとなります。

イエスは再臨される際、一度目にこの世に来られたときに始められたお働きを完成されます。イエスのお働きは今も、イエスの弟子たちをとおして継続しています。その弟子たちとは、私たちであるはずで。

しかし、やがてイエスはご自身の働きを再臨されたときに完成されます。その完成には、さばきが含まれます。これについては、来月学びます。

イエスは、5 人が愚かで 5 人は賢かったと説明されました。

その違いとは、賢かった 5 人は一晩中もつように十分な油を用意するという簡単な備えをしたことです。

他の 5 人は、油は安くどこでも手に入るのに、準備しませんでした。

準備をした娘たちは、油がもっと必要になるかもしれないと考えたのです。状況についてあらかじめ考えたわけです。

オリーブオイルは当時たくさん採れたので、入手するのは簡単でした。
イエスの再臨に備える人は賢い人です。世の中には、聖書も教会も信仰書もたくさんあります。
けれども、聖書を読んだり、福音を教える教会に行ったり、イエスのことばに思いを巡らしたりする時間を取らない人が大半です。
イエスの再臨に何の備えもしない人は愚かな人です。
私たちは、「イエスの再臨にどんな備えをしているだろうか」と自分自身に問わなければなりません。
一番大切な備えは、生活の中で霊的な純潔を守ることです。
それができる唯一の方法は、イエス・キリストを救い主であり人生の主として信じることです。
イエスがそれを可能にしてくださったお方です。イエスは十字架上で死んでくださり、私たちの罪の罰を負ってくださったお方です。
イエスだけが、私たちを神の御目にきよい者としてくださいます。
イエスにしかできない理由は、このお方が人の姿をした神だからです。
イエスは神の御子と説明されますが、そのことはわかりにくいかもしれません。
エホバの証人はこのことを受け入れず、イエスは神に造られた人間であると言います。
しかし、聖書は次のように語ります。

ヨハネ 1 : 1-5

1:1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
1:2 この方は、初めに神とともにおられた。
1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。
1:4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。
1:5 光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。

ヨハネ第一 5 : 20-21

5:20 しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。
5:21 子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。

まだイエス・キリストを信じて救いを得ていないなら、5人の愚かな娘たちと同じです。

2. 花婿—6-12 節

6-12 節には、「夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ』と叫ぶ声がした。」とあります。
その声を聞いた娘たちは全員目を覚まし、ランプを整えました。ランプを整えるとは、芯の燃えかすを切ることです。愚かな娘たちは、ランプの油が切れそうなのに気づきました。それで、予備の油を準備していた娘たちに油を要求します。
けれども、賢い娘たちは、自分で油を買いに行きなさいと答えました。
まだ夜中ですから、朝まで火をともしつづけるためです。
愚かな娘たちは、油を買いにその場を離れました。
けれども、彼女たちがいない間に花婿が到着し、5人の賢い娘たちは花婿と一緒に婚礼の祝宴に入っていき、扉は閉められました。
愚かな娘たちは戻ってきましたが、祝宴に入れてもらえませんでした。
彼女たちは遅すぎたのです。もう婚礼の祝宴に入ることはできません。
では、このたとえの後半から何を学べるでしょうか。
まず、時間についてです。これは夜中でした。
イスラエルの民がエジプトを出る旅は、真夜中に始まりました。

出エジプト記 12 : 29-30

12:29 真夜中になって、【主】はエジプトの地のすべての初子を、王座に着くパロの初子から、地下牢にいる捕虜の初子に至るまで、また、すべての家畜の初子をも打たれた。

12:30 それで、その夜、パロやその家臣および全エジプトが起き上がった。そして、エジプトには激しい泣き叫びが起こった。それは死人のない家がなかったからである。

真夜中は、たいていの人が寝ている時間です。

誰も予期していないとき、願っていないときにイエス・キリストが来られることを示しています。

イエスの再臨に関わる内容の聖書箇所はすべて、イエスが突然予期しないときに来られると語ります。

次に、賢い娘たちは愚かな娘たちを助けようとしなかった、助けたくても助けられなかったことです。

愚かな娘たちは、家から十分な油を持ってくるチャンスがあったのに、ちゃんと考えなかったのか、考えるつもりもなかったのかもしれませんが。

愚かな娘たちは何の準備もしていませんでした。

私たちは恵みの時代に生きています。恵みの時代とは、誰でもイエスを救い主であり人生の主として信じられる時代です。

これは、神からの賜物です。人間がこれを自力で獲得することはできません。

これは、神から私たちへの贈り物なのです。けれども、贈り物は受け取らなくてはなりません。

それを受け取れるときは、「今」しかありません。聖書は、「今は救いの日です」と語ります。

コリント第二 6 : 1-2

6:1 私たちは神とともに働く者として、あなたがたに懇願します。神の恵みをむだに受けないようにしてください。

6:2 神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。

今日もし自分の罪を示されたなら、今日こそ、イエスに赦しを求めるべき日です。

自分の罪をイエスに渡すのです。そうすればイエスは、その罪を取り去り、ご自身のきよさと取り替えてくださいます。クリスチャンになることは、重荷ではなく喜びです。

けれどもご注意ください。「恵み」の時はいずれ終わります。

イエスの再臨に今から備えてください。手遅れにならないためです。

12 節で、祝宴の扉の向こう側の人は、「私はあなたがたを知りません」と愚かな娘たちに言いました。

クリスチャンになるとは、イエス・キリストをとおして、私たちの創造主である神と個人的なつながりを持つことです。

イエスは、私たちを罪の束縛から解放するために払われた代価となりました。

今日、解放されたいと思いませんか。罪に縛られたままでいいのですか。

マタイ 20 : 28

20:28 人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」

3. 警告—13 節

最後に、イエスは弟子たちに「目をさましていなさい」とおっしゃいます。イエスが再臨される日時は誰にもわからないからです。

日本では、待ち合わせに遅れないために 10 分前行動が推奨されています。

しかし、イエスの再臨はいつ起こるかわからないので、遅れないようにするにはイエスを今日信じなくてはなりません。

32年前、私はフェイス・ミッションの伝道者として働いていました。そこはスコットランドのエジンバラ近郊にある小さな炭坑町でした。

3週間の宣教集会があり、ある晩、私が礼拝をリードして、賛美の曲も選ぶ当番でした。そしてなぜか、私には「間に合うように」という言葉が聞こえました。そして、その歌の曲が聞こえ始めました。

その歌をそれ以前に聞いたことがあったかどうか覚えていませんが、神が選ばれた曲だと感じ、その夜の集会の最後の賛美にその歌を選びました。

そして、その賛美歌を紹介し、会衆全員で歌い始めました。

すると、ある女性が号泣し始め、歌えないほどの状態になりました。

集会が終わると、その女性とご主人が、私を自宅に招いてくれました。

スコット夫妻です。

その女性は、子どものころ「間に合うように」という賛美歌を父親がよく歌ってくれたのだと説明しました。

そして、それまでの人生でイエスを自らの救い主として信じたことがなかったことに気づいたそうです。

それで私は、今夜信じますか、と尋ねました。

すると女性は泣き崩れ、罪をお赦しくださいとイエスに祈りました。

その夜から、この女性は神との一対一の関係を始めることができました。

彼女の夫も、イエスを心に招き入れました。すると、彼の顔は神の栄光で輝いていました。

ご夫妻は今では天国に召されました。ふたりは間に合ったからです。

召されたとき、ご主人は70歳、女性は65歳でした。

皆さんに、この「間に合うように」という賛美歌の歌詞をご紹介します。

古い賛美歌ですが、歌いやすい曲です。

間に合うように

しあわせはつかのま
木から葉が落ちるよう
束を縛るよう
だから、間に合うように
日々は過ぎ去る
死はすぐにやってくる
だから、間に合うように

間に合うように
イエスの声が招いておられるうちに
間に合うように
罪の中にとどまるなら
扉は閉じられるかもしれない
泣いても手遅れ
だから、間に合うように

美しい花も枯れる
若さと美貌は過ぎ去る
いつまでも時間はない
だから、間に合うように
神の御霊が呼んでくださる間に
罪人よ、さまようのはもうやめよう
絶望的な宿命にならないように

間に合うように

罪人よ、聞け
主を選べ
そうすれば天は喜ぶ
だから、間に合うように
暗闇から光に進み
イエスに正していただく
今夜、イエスのいのちを受けよう
間に合うように

皆さんも、「間に合うように」備えてください。
今日、イエスを信じましょう。
アーメン。